【史料紹介】第七師団兵士の日露戦争従軍日記（上）

原田敬一

〔抄　録〕

第七師団歩兵聯隊の上等兵が、従軍中に書き続けた日記の翻刻。氏名不詳。召集まで北海道焼尻島警察分署に勤務していた警察官。従軍中に伍長に任じられ下士官となった。記録の期間は、一九〇四年一一月一三日大阪港を出発し、奉天会戦などに参戦し、一九〇六年二月一八日三台子から「凱旋ノ途」につき、二八日神戸港に着くが上陸許可されず、三月三日室蘭港に入港、市民数十万人の歓迎を受け、帰国。一六日増毛に入港して、故郷の歓迎を受ける一八日までの日誌である。休戦協定以後の隊内娯楽の記述は珍しく、また講和成立に対する聯隊長と兵士の差が面白い。今回は、二回連載の前半部になる。

キーワード　日露戦争、従軍日記、歩兵聯隊、乗馬歩兵隊、第七師団

〔解　説〕

オークションで入手した北海道出身兵士の従軍日記を翻刻した。縦二〇センチ／横一二・五センチ、つまりほぼB6判サイズのハードカバーのノートで、これを事前に準備し、従軍中の記録を続けたと推定できる従軍日記である。従軍した一年八ヶ月、五八七日間から一日抜けた五八六日分の日誌である。全一〇九頁の従軍日誌と、戦後の書き込みと思われる二頁分があるので、合計一一一頁・五八六日間の日露戦争従軍日記である。

氏名が不詳なのが残念だが、一九〇四年八月四日第七師団に動員が発令された時、著者は北海道苫前郡の焼尻島（やぎしりとう）にある警察分署に勤務していた。召集の電報を家から受けとったが、船がなくすぐには出発できなかった。一日船待ちをして分署事務を引き継ぎ、八月九日札幌郡豊平村大字月寒に駐屯地のあった歩兵第二五聯隊の乗馬歩兵隊に編入

となった。

乗馬歩兵隊は、日露戦争中の第七師団のみが保有していた部隊だった。これは日露戦争の勃発を前にした第七師団司令部が、一九〇四年一月七日児玉源太郎参謀次長に充てた上申書の実現したものである。大迫尚武第七師団長の名による上申書[1]は次のように述べていた。

有事ノ日ニ於ケル当師団歩騎兵隊ノ実力ヲ増加センカ為メ臨時ニ乗馬歩兵隊ヲ編成スルノ有利ナルヲ相認メ候ニ付該隊編成ニ関スル意見書別冊及進達候也

追テ御採用ニ相成候ハヾ当部ニ於テ準備ノ都合有之候ニ付至急何分ノ御命令相成候様御取計相成度申添候

一月七日という時点で、第七師団司令部は「有事ノ日」を見据え、歩兵と騎兵の戦闘能力向上をめざして、他の師団には見られない「乗馬歩兵隊」を提案していることに注目したい。別冊の意見書は「第七師団歩兵聯隊ニ乗馬歩兵ヲ附シ度儀ニ付意見　第七師団司令部[2]」と題するもので、長いが全文引用する。

第七師団歩兵聯隊ニ乗馬歩兵ヲ附シ度儀ニ付意見具申

第七師団第一動員ノ際臨時ニ屯田歩兵ノ斥候兵タル兵卒八十名ヲ召集シ之ニ屯田騎兵下士若干ヲ附シテ乗馬歩兵隊ヲ編成シ以テ歩兵各聯隊ニ配附シ置ントス

理由

一、三十六年及三十七年度ニ於テ第七師団ノ騎兵聯隊ハ何モ二中隊編制ナリ、故ニ戦場ニ於テ各部隊ニ所要ノ伝騎ヲ取ルトキハ兵力甚タ寡少トナリ聯隊ハ充分ナル活働ヲ為スコト能ハサルニ至ルナキヤヲ保セス、又歩兵中隊ノ人員ハ両年度共ニ定規ノ戦時編制ニ達セサル所ノ臨時編制ナリ、加之ナラス目下歩兵三中隊（第廿五、第廿六、第廿七聯隊ヨリ各一中隊ツヽ）ハ清国ニ派遣シアルヲ以テ此両年度ニ於テハ戦時ニ於テモ到底此派遣隊ヲ聯隊ニ帰還セシメラル、コトハナカルヘク従テ三個ノ歩兵聯隊ハ一中隊ヲ欠キタルモノヲ以テ戦ニ従事セサルヘカラス、然ルニ戦場ニ於テハ尚定規編制ノ聯隊ト等シク斥候伝令等ヲ派遣スルノ要アルニ依リ戦線ニ出ル銃数ハ益減少スルニ至ルハ必然ナリ

二、当師管内ニハ後備屯田歩兵ノ内ニ斥候兵（上等兵以下ニシテ乗馬本分ナリシ）八十四名アリ、依テ之ヲ召集シ乗馬歩兵隊ヲ編成シテ歩兵各聯隊ニ配付シ伝令及斥候等ノ所勤務ニ服セシメバ一方ニハ騎兵聯隊ノ集結ヲ保持シ得ヘク一方ニハ歩兵隊ノ実力ヲ増補スルヲ得ヘシ

三、或ハ曰ハン是レ屯田兵ナラスヤト、然レトモ此屯田歩兵斥候兵ハ各中隊ヨリ四名ツヽ撰抜シタルモノニシテ現役〈抹消：兵〉中二年間ハ主トシテ歩兵ノ教育ヲ為シ更ニ五年乃至六年間斥候兵トシテ乗馬ノ斥候及伝令等ノ教育ヲ為シタルモノニシテ其成績ハ良好ニシテ嘗テ教育総監巡視ノ際ニモ大ニ賞揚セラレタルコトアリ、而シテ後備役兵ナリト雖モ屯田兵ノ特色トシテ騎坐ノ確実及脚力ノ強健ナルコトハ信シテ疑ハサル所ナリ

四、前各項ノ理由ニ依リ当師団ニ於テハ臨時ニ乗馬歩兵隊ヲ編

成スルノ有利ナルヲ認ム

師団司令部の掲げる理由は、第七師団の弱点に当るものだった。北海道は沖縄県と並んで徴兵令未施行地で、全道に徴兵令が施行されたのは日清戦後の一八九八年一月だった（沖縄県と小笠原島にも同時施行）。しかし北海道の人口では必要兵員が確保できず、例えば一八九九年一二月の入営兵は、北海道（第七師管）六九七名のほか、東京・埼玉・千葉など（第一師管）八七三名、宮城・福島・新潟（第二師管）一七一名、青森・岩手・秋田・山形など（第八師管）三七名だった[3]。北海道から徴集できたのは一七七八名の全入営兵のわずか三九・二％にとどまっていた。第一師管からの徴集がなくなるのは一九二〇年、第二師管では一九二五年の廃止まで続き、現役入営兵のすべてが第七師管管下となるのは一九三三年となる[4]。こういう徴集状況の下で、通常三個中隊からなる騎兵聯隊が、第七師団の場合二個中隊編成であり、また日露戦争開戦時には第七師団の四個歩兵聯隊から計三個中隊が清国駐屯軍（北京近郊から天津付近に駐屯）に派遣されており、それが欠けたまま日露戦争に参戦することになった。以上の弱点を補うために第七師団司令部が考案したのが乗馬歩兵隊だった。原資は屯田兵。制度上は現役兵ではなく、後備役の扱いだったが、彼らは訓練も行き届いており、乗馬にも慣れているので活用しようという提案だった。先に挙げた一月七日付の大迫師団長の上申書には、「異存ナシ第一部」「人馬材料ノ現在スル限リ編成セシメテ可ナリ　但シ動員後ニ允裁ヲ受ケシムルヲ要ス、計画ハ今ヨリ命ス　動員課」という賛成の付箋がついて参謀本部の認可となった。

「意見書」にある「乗馬歩兵隊編成案」は、一隊を下士三名馬三頭、兵卒二〇名馬二〇頭で、四隊編成（第七師団に歩兵聯隊は四個なので、各歩兵聯隊に一乗馬歩兵隊となる）の案だった。同案の「備考」には「下士ハ後備屯田騎兵ヨリ兵卒ハ後備屯田歩兵（斥候兵）ヨリ召集ス」とあるので、現役兵ではなく、屯田兵から徴集したと思われる。

著者は現役の警官であり、予備役と思われるので二三歳から二八歳までの青年である。北海道の警察官は乗馬訓練があったのかもしれない。著者は入営直後の身体検査で乗馬歩兵隊に編入となり、八月九日から一〇月二〇日まで約七〇日間（日曜日や休養日も含めて）「乗馬演習」を続けた。戦場では聯隊長等の伝騎として活動する程度にまで乗馬勤務を習熟している。

第七師団は乃木希典軍司令官の第三軍に属し、旅順攻囲戦、奉天会戦に参戦した[5]。

著者もそれらの戦闘に参加し、奉天会戦後の一九〇五年三月二一日に「本日伍長昇進」とあるので、召集時は上等兵だったと思われる。その後の昇進はなかった。日本へ凱旋後の一九〇六年三月一二日午前九時、除隊となり、出身地と思われる増毛へ帰っている。

日記は分量上二回に分載しなければならなくなった。全体を通して、著者は感動して、よく「涕泣」している。それは聯隊長渡辺水哉大佐も同じで、感極まった状況で彼らはよく泣いている。また、奉天会戦後の歩兵第二五聯隊では（おそらくほかの部隊も）、聯隊や大隊規模で「宴会」や「興行」が続いている。中国東北部の寒さをしのぐために、日清戦争でも日露戦争でも酒の配給がしばしば行われている。ま

た娯楽としては、大隊本部や聯隊本部で「蓄音器」を聞かせている。レコードは何を使用したのかわからないが、「蓄音器」という新しい器械に触れることに下士官や兵士の楽しみがあったのだろう。部隊内での「興行」がまめに開かれていて、浄瑠璃や祭文が記されている。誰が演者だったのか、書かれていない。部隊に芸達者な兵隊がいて、彼らにやらせたと思われる。日記後半部の凱旋が本決まりになった頃、一九〇六年一月二九日の項には、「本日奉天義会ヨリ薩摩ビワ持参シ来リ聯隊本部ニテ将校一同ヲ集メ興行ス」と記されている。おそらく奉天の町にいる日本人団体の一つである奉天義会が薩摩琵琶の慰問に現れたのだろう。こうした記述をそれまでしていないし、プロや民間人が戦場に現れることはないから、その日以外は大道芸である祭文にも通じた芸達者な兵士と考えておく。

（本文）明治卅七年八月四日露満州之役日誌

明治卅七年八月四日

第七師団動員発令、仝五日北海道焼尻島ニテ召集電報ヲ接手

八月六日　晴天

応召出発セントスルモ乗船ナク一日千秋ヲ思ヲナシ船待、大室回漕店及京谷氏ノ尽力ニ依リ船ヲ招キ呉レ大参巡査召集分署事務ヲ引継キタリ

八月七日　晴天

午后七時天塩川丸ニテ焼尻出発セリ

八月八日　晴天

午前十時増毛港着、上陸、増毛警察署ニ至リ署員袖別、内山田警部以下波止場迄送ラル、后五時小樽着、終列車ニテ札幌着、市街一泊

八月九日　晴天

早朝馬車ニテ月寒兵営ニ至リ身体検査ノ上歩兵第廿五聯隊乗馬歩兵隊ニ編入セラル

自八月九日　至十月廿日　間

兵営馬屋ノ都合上豊平村羽部孝次方ニ宿舎シ毎日乗馬演習

十月五日　勅令ヲ以テ乗馬歩兵隊編成サル、仝月七日曹長三宅堪蔵、仝佐藤慶三、伍長実又一ト曹長渡辺政治、伍長大東福蔵、仝太田巳年太ト交代セリ

十月廿一日　大降雨

午后八時廿五分札幌駅発、各学校及各種団隊ノ誠意ナル歓送ニ涙ヲ流セリ、札幌警察署長飯田警視氏ノ車中ニ来リ小生ノ健康ヲ祈ラレタリ

十月廿二日　曇天

午前五時室蘭港着、幕西町土滝ノ沢平吉方舎営、御用船ノ入港ヲ待ツ

十月廿三日　晴天

午后五時室蘭港出帆、歓送の盛（ママ）ンナルニ各兵絨（ママ）衣ノ袖ヲシポ（ママ）レリ

十月廿四日　降雨

未明青森港着上陸、大町一丁目百十四樋口喜輔方ニ乗馬歩兵全部宿舎ス、仝月廿七日迄滞在

十月廿八日　降雨

午前十一時青森駅出発、盛岡、仙台、新宿、ニテ食事、新宿駅出発ノ時ハ車中起立、皇城ニ向イ国歌ヲ奏シ奉リ　天皇陛下ニ御別レ申セリ、兵員一同涙ヲ流セリ、仝月三十一日午前十一時大坂着、西区靱南三丁

目五六福島金馬方宿営

十一月二日　晴天

大坂城南練兵場ニテ天長節観兵式予行演習

十一月三日　晴天

天長節観兵式、午后大坂名所旧跡ヲ見物仝月十二日迄滞在、演習セリ

十一月十三日　晴天

海外出征ノ目的ヲ以テ前四時宿舎発、大阪築港ヨリ小雛丸乗船、仝十一時出帆、歓送盛ンニシテ各員涕泣セリ、殊ニ大坂毎日新聞主筆ノ第七師団歓送詞トシテ大声散橋上ニテ述ベタルニハ殊ニ感涙ヲ催レタリ、午后七時讃岐海峡通過、左ニ八嶋山、五飯山、遠望シ高松市電燈ヲ見回郷ノ念措ク所ヲ知ラズ

十一月十四日　降雨

天幕ニテ天水ヲ取リ洗面ス、正午馬関、下ノ関着、午后四時馬関出帆、仝六時ヨリ甲板上ニテ兵員一同四百余州軍歌ハ一曽玄海ノ波ヲ静メタリ、上甲板ニテ独逸観戦武官驚顔ヲ見受タリ

十一月十五日　高浪

午后二時十分朝鮮国巨文島及諸列島ヲ右ニ見始メテ霰レ降レリ

十一月十六日　降雪

終日降雪雨、一ツノ島山ヲ見ズ、兵員一同酔フ

十一月十七日　晴天

稍波静カナリ、前十一時韓国白札島ヲ発見ス、是ヨリ凡廿里ニテ大緑江河口ナル由、一ツノ山上ニ海上異状ナシ信号アリ、明午前タルニー港上陸命令アリ、元気回復、右側十五六里ニ当リ威海衛ヲ望ム

十一月十八日　晴天

前十時ダルニー入港、后二時上陸スルニ露兵退却ノ際焼棄シタル各官公衙市街惨憺タルモノナリ、荒屋土間ニ一泊、支那人湯屋ニ行キ入浴スルニ湯銭拾銭不潔言語ニ堪ヘタリ、午后九時聯隊命令、明前七時タルニー出発、曹家屯、三椿栁、候家溝、南泡志街、大心塞、台家屯（台家屯ハ会州ト旅順鉄道分岐点ナリ）王家屯、前牧城子、営城子（此処ニ兵站部アリ）ヲ経テ双台溝ニ向テ進ム、乗馬歩兵ハ第一大隊先頭在リテ前進スベシ、本日午后九時支那人湯屋ニ行キ入浴スルニ湯料拾銭又不潔言語ノ限ナシ

十一月十九日　晴天

前七時青泥窪ヲ発シ第一大隊ノ先頭ニ在リテ前進、営城子ニテ昼食、午后五時小麻子村字西小麻子ニ着、村落宿営、初メテ清人ノ味噌汁ニ大根ヲ入レ食ス（本日旅路行軍）当地ニテハ旅順攻城砲々声盛ンニ聞ヘリ、探海燈モ恰モニジヲ見ルニ似タリ愉快ナリ

十一月廿日　晴天西風

本日休業人馬ノ休養、当村西端海岸ニ至リ支那ジヤング船ヨリ薩摩芋ヲ買ヒ来リ食ス

十一月廿一日　晴天

将校一同観戦トシテ乗馬歩兵隊ノ馬ニ乗リ戦線ニ行ケリ、本日天明ノ頃盛ンナル銃声アリ

十一月廿二日　降雪

午后二時旅順市街地ニテ盛ンナル火災アルヲ見ル、達井相之助ナル通弁人ヨリ旅順ノ敵状ヲ聞ク、本日乗馬蹄鉄改装ス

十一月廿三日　晴天
午前五時ヨリ字廊々屯第三大隊本部ニ行キ将校用乗馬引キ行ク、兵三名引率、前夜旅順方面ニアリタル火災ハ敵砲兵工廠火災ナル報ヲ聞ク
十一月廿四日　晴天
庄麻子西庄町西北海岸ニ於テ勅諭奉読式ヲ旅行（ママ）ス、明朝土城子ニ向テ出発ノ命令アリ
十一月廿五日
前七時西庄町出発、双台溝及営城子ヲ経テ午后三時土城子ニ至リ馬ヲ繋キ軽装ニテ土城子南方山麓ニ集合シ酒ノ給与アリ、野外立チナガラ死別酒ヲ呑ミ東北溝砲台ニテ露営ス（土城子ハ日清戦争ノ際我騎兵難戦苦闘ノ古戦場ナリ）
十一月廿六日
午前五時東北溝ヨリ眼鏡台ニ向テ溝ノ中ヲ腰ヲ屈シ敵ニ発見セラレサル様前進、仝十時ヨリ松樹山ニ向テ砲撃ヲ開始シ彼我砲声爆発ノ為言語判明セズ、午后二時渡辺大佐ヨリ木大杯ヲ出シ巻絵ノ説明アリテ該大杯ニテ互ニ聯隊一同死出ノ酒宴アルモ酒ヲ多量ニ飲ムモノナシ、日没ヲ待チ松樹山補備砲台ニ向テ夜襲、第七師団ノ廿五聯隊第一、第二大隊及歩第十五聯隊第二旅団長中村少将ノ指揮ニテ混成旅団トシテ出発ス
十一月廿七日
昨夕来ノ戦況ハ激戦ニシテ記スル能ズ、午前四時退却ノ上眼鏡台集合シ松樹山腹ヲ見ルニ死傷者黒色外套ニテ恰モ千羽烏ノ居ルニ似タリ、退却セザルト云ヒテ泣キタルハ渡辺大佐、本夜〇時頃中村少将閣下負傷古参渡辺大佐代リテ旅団ノ指揮ヲ採レリ、当日死傷将校以下五百五十九人、山腹草中ニテ悲鳴ヲ発シ居ルモノ又道傍畑中ニテ眠リ居ルモノ其惨状記スル能ズ、午后二時伝騎トシテ岡崎儀四郎ヲ率イ鳳凰山南方高地第七師団司令部ニ行キ夫レヨリ双台子ヲ経テ軍司令部参謀部ニ行キ夜中帰ル、疲労甚シク歩行スル能ズ
十一月廿八日
午后二時二龍山砲台攻撃トシテ出発、黒鳩金砲台ニ至リ夏期我兵ノ戦死シタルモ日々激戦ニテ収容スル能ズ、今尚現存セリ、其惨状云ハン方ナシ、終日終夜砲声ゴウ〳〵絶間ナシ
十一月廿九日
眼鏡台砲台土穴内ニ泊ス、現品給与、本日没ヨリ二〇三山砲台攻撃着手
十一月三十日
前日ニ引キ続キ二〇三山攻撃未明ニ至リ砲声盛ンナリ、前日戦死セシ石田大尉ノ葬式ヲ土城子ニテ行フ、涕流措ク所ヲ知ラズ、葬送式ヲ挙クルニアラズ、只白骨ヲ鑵結ノ空鑵上ニ上ゲ線香モ香花モ燈明モナク従軍僧ノ読経アルノミ
十二月一日
午后二時眼鏡砲台ヨリ水師営南方高地土穴内ニ移軍、暗夜ニ築シ高崎山下ニ転戦ス、当山ハ高崎市第十五聯隊ノ占領セシ山ナルヲ以テ其名アリ
十二月二日
午后三時高崎山ヨリ海鼠山下ニ移ル、敵ノ砲撃盛ンニシテ進軍困難ナ

リ、二〇三山々腹ノ我戦死者ノ惨憺タル頭ナリ手ナリ足ナリ何レモ身体ハ粉離シ居レリ、筆紙ニ記ス能ズ、夜間聯隊本部へ伝騎トシテ交代ニ行ク、戦闘ノ閑ニテ死体収容中ナリ

十二月三日　晴天幕営

午前海鼠山ニ登リ二〇三山赤坂山ノ戦死者ニテ山腹ヲ覆イアルヲ見テ泣ク、山上ヨリ旅順港内ヲ初メテ見ル、肉眼ニテ病院船ヲ見タリ、午后海鼠山下岩石上ニテ廿六聯隊長以下将校仮葬式ヲ見ル、丸井大佐以下一同泣ケリ、日没攻撃交代中林伊二郎ニ面会ス

十二月四日　晴天　幕営

午前九時海鼠山ヨリ胡家屯厩舎ニ帰ル、前日機関砲ヲ見ル、本夜第十七聯隊長ニ乗馬二頭ヲ貸ス

十二月五日　晴天幕営

前九時金華屯歩兵第十七聯隊本部ニ行ク、本日二〇三山及赤坂山ヲ占領ス、本夜胡家屯ノ天幕ニテ村上、岡、高薄、堀井、松岡ニテ寝所ノ抽籤ヲ行フ、快ナリ

十二月六日　晴天幕営

十一月十三日大阪出発以来初テ散髪セリ、本日敵軍ヨリステツセル、ノ軍使我ガ歩哨線ニ来リ、彼我死体収容ヲ商議セリ、間断ナキ砲声モ一時中止セリ

十二月七日　晴天幕営

終日胡家屯厩舎ニ在リ、二〇三山ハ九月十二日ヨリ攻撃ニテ仝廿二日第一師団ニテ占領セシモ逆襲ヲ受ケ彼レニ占領サレタルモノナリ、本日乃木包圍軍司令官二〇三山及赤坂山ニ登リ占領戦線ヲ視察、一兵卒ニ至ル迄握手ヲ行ヘリ

乃木将軍旅順ノ堅塁ヲ見テ

爾霊山嶮豈誰攀
男子功名期克難
鉄血覆山形改
万人斉仰爾霊山

十二月八日　晴天幕営

午前七時胡家屯発、伝騎交代トシテ二〇三山下土穴ニ移ル、午后一時ヨリ水師営南方B砲台第二旅団司令部ニ行ク、二〇三山歩哨線ニテ旅順港内及市街軍艦船ヲ眼下ニ見ル、大ニ愉快ナリ、兵兵（ママ）第七大隊第二中隊藤巻金太郎氏（焼尻村字鬼洞ノ生）面会ス

十二月九日　晴天幕営

本日ハ第十三旅団司令部伝騎トシテ鈴木覚二郎ヲ率イ集家屯野戦郵便局ニ行ク

十二月十日　大風小降雪幕営

二〇三山上ニテ露営、本夜海軍陸戦隊ハ臼砲ヲ二〇三山及赤坂山鞍部ニ挽上中ナリ

十二月十一日　晴天厳寒　幕営

赤坂山下ニ幕営ス、仝山ハ日清役赤坂少佐ノ占領セシ故ヲ以テ其名アリ

十二月十二日　晴天　幕営

二〇三山占領以来我ガ重砲ハ港内敵艦砲撃中、其爆声耳ヲ塞クノ感アリ、前日寺田仁次郎乗馬旅順号斃死ス、旅順ノ陥落ニ付其故ナラン

十二月十三日　晴天　舎営
午前九時二〇三山幕舎ヨリ小東溝厩舎ニ帰ル、前日　天皇陛下ヨリ旅順速陥ノ詔勅下ル、敵艦セバストポー号戦闘力ヲ失ヒ黄金山下ニ逃ケ帰タル旨間諜ノ報アリ、日没頃ヨリ降雪二寸、来ル十六日旅順総攻撃ノ命アリ
十二月十四日　曇天　舎営
本日二〇三山前方小丘ヲ占領ス、二竜山砲台ノ半占領ノ報アリ
十二月十五日　降雪　舎営
歩二五聯隊補充員二百名到着ニ付渡辺曹長ト共ニ受領ノ為メ曲家屯第二野戦病院本部ニ行キ午后十一時帰ル、本日旅順港内敵東洋艦隊全滅ス
十二月十六日　晴天　土営
前九時小東溝ヲ発シ二〇三山ニ来リ、渡辺大佐専属伝騎ヲ命セラル、山上堡塁内ニ移ル
十二月十七日　晴天　土営
伝令勤務中本日第十四旅団ニテ左翼砲台攻撃中午前渡辺大佐ト共ニ鉢巻山砲台ニ行ク、敵兵累死ノ惨状ヲ携帯早取写真ニテ写ス
十二月十八日　晴天　土営
午后二時五十分敵ノ埋設セル地雷火暴発、折柄吉田少将登山中ニテ戦線巡視中ナルヲ以テ仝少将無事ナルモ渡辺大佐外四十六名ノ死傷アリ、余モ又負傷ナキモ空気ノアツ迫ニ依リ二三間山下ニ飛サル、為メニ旅順諸山一時ニ崩レントスル猛声ヲ放チ嚴石四方ニ飛散シタリ、本夜十一時聯隊長ヨリキスケットヲ貰フ、夜ニ乗シ敵兵傘山ニ逆襲ヲ企テタルモ目的ヲ達セズ退却セリ
十二月十九日　晴天　土営
午前七時朝食前吉田少将登山シ来リ渡辺大佐ト共ニ鉢巻山ニ上リ旅順ノ敵状ヲ望遠鏡ニテ見ル、本夜当聯隊ニテ傘山ニ作業中酒ノ分配アリ、大ニ酔フ、午后第十一師団ニテ東鶏冠山堡台占領ヲナセリ
十二月二十日　晴天　舎営
午前狩野上等兵ト伝騎交代ス、小東溝厩舎ニ帰ル
十二月二十一日　晴天　舎営
無名砲台俗ニ破砲台トスルヲ明早朝攻撃命ヲ出ズ、第一大隊長馬丁ヨリ左ノ新歌ヲ聞ク

二百三山登リテ見レバ眼ノ下ニ
見ユル旅順ノ新市街アリヤ　最早ヤ
我手ニネー落チルトハ　何ト愉快ジヤ
ナイカイナ　サノサ

十二月廿二日　晴天　舎営
本日大東軍曹半縦列監守トシテ岡上等兵ヲ率イ礼慶子ニ行ク、去ル十九日月寒将校婦人会ヨリハンカチ布寄贈アリ、渡辺曹長ヨリ左ノ歌ヲ作レリ

港内ノ露艦モ今ハ袋ノ鼠
西ニ逃クレリヤ犬ノ番　東【左：抹消】ニ逃グレリヤ　ネー
猫ノ番　ステツセル
旅順落日旦夕迫
背カラ打チ出ス数万ノ砲台ニ　サノサ

本朝午前三時ヨリ破砲台（一名赤砲台）攻撃ノ所ハ速射砲四門アル事ヲ我斥候兵ニテ探知シ猶露探ヲ慮リ攻撃ヲ変更セリ

十二月廿三日　晴天　舎営

本日無名山（赤砲台ノ前面）を占領ス、死傷百三十五名、夜中狩野上等兵ト共ニ三宅曹長ヲ獣医部ニ訪フ、酒ノ馳走アリ

十二月廿四日　晴天　舎営

本日小東溝ニテ土中ニ厩舎ヲ掘ル、前日ニ引キ続キ戦闘中、近江、大月両上等兵及森田一等卒遼東熱ニ罹リ床ニ就ク、各隊トモ病兵多リ

十二月廿五日　晴天　幕営

午前九時小東溝ヨリ二〇三山西麓ニ移ル、直北砲台ヲ渡辺山ト改称ス、渡辺大佐及渡辺工兵大尉ニテ占領セシニ依ル、廿八珊知砲拵付中、本夜中敵兵鳩湾及直北砲台ニ向テ逆襲シ来タルモ撃退セリ

十二月廿六日　晴天　舎営

午前二時二〇三山麓ヨリ敵ニ発見セラレサル様大平溝ニ集合ノ上、高家屯ヲ経テ夏家屯ニ至リ支那人家ヲ徴発ノ上宿ス、当夜後備第十五聯隊ト交代ス、戦況頗ル惨憺タルトノ申シ送リアリ、夏家屯ハ鳩湾ノ東岸ナリ

十二月廿七日　晴天　舎営

聯隊本部ニ伝騎トシテ交代ス、夜中鳩湾ニ敵中ヲ命令伝達ス、異状ナシ

十二月廿八日　晴天　舎営

午前九時夏家屯ヨリ小東溝高橋主計ノ許ニ渡辺大佐俸給ノ件ニ付行ク、同十時ヨリ松樹山、二龍山砲台破壊作業成リテ爆発セリ、恰モ百雷ノ降下ニ似タリ、余ノ乗馬驚キテ立テリ、爆発ト共ニ我軍諸砲台ヨリ一時ニ砲撃ヲ開始セリ、午后九時松樹山、二龍山ヲ確実ニ占領セリ、本夜聯隊ヨリ酒ノ給与アリ、本日没迄老鉄山ニ二ヶ所黄金山一ヶ所鶏冠山ニ一ヶ所アリタル探海燈ハ俄カニ消燈セリ、本日ノ爆発ハ第九師団ノ攻撃セシモノ、本夜渡辺大佐ハ前面敵歩哨線ニ向テ勧降状ヲ送ル、聯隊長ダルニー入院ス、是レ本月十八日余ト共ニ二〇三山上ニテ地雷ニ罹リタル時ノ負傷ノ為ナリ、第二補充兵二百名到着セリ

十二月廿九日　晴天　舎営

伝騎交代トシテ小東溝ニ行ク、本日未明ヨリ旅順市街大火災焼烟盛ンニ上ル

十二月三十一日　晴天　舎営

午前松樹山陥落ス、廿五聯隊背嚢輸送之件ニ付長嶺子ニ行ク、御正月ノ馳走給与サル、右翼軍老鉄山麓迄前進ス、本夜ヨリ俄カニ遼東熱病ニ罹ル

明治三十八年

一月元旦　晴天

病床ニテ絶食、本日ヨリ敵降参兵続々我歩哨線ニ来ル、又降参中敵兵百名我地雷ニ罹リ死ス

一月二日　晴天　舎営

本日診断ヲ受ク、午后三時旅順各砲台及新旧市街ニ白旗上ル、彼我軍使往復ス、露将ステツセル、ヨリ乃木軍司令官ニ開城ノ為メ会見ヲ求メ水師営ニテ会見ノ上午后六時ヲ以テ難陥不落ノ金城モ遂ニ日本軍ノ

占領スル所トナレリ、万歳ノ声包囲軍全線ニ亘リ轟ケリ、午后九時旅順陥落ノ祝トシテ酒ノ給与アリ、為メニ廿八珊知砲弾破片又ハ空鑵ヲ打チ観(ママ)声遼東ノ野ヲ轟セリ

一月三日　晴天　舎営

午前九時大迫中将并ニ各将校、工兵ハ旅順砲台及市街受領トシテ前進ス、余ハ軍医部ニテ受診ス、正装ノ支那人ハ旅順陥落ヲ祝シ来タレリ、昨日迄ハ間断ナク砲声殷々ナリシガ今朝ニ至リ一ツノ銃声サエナク恰モ日本内地ニ在ルノ思ヲナセリ、本日没ヨリ敵軍ノ地雷火ヲ我ガ工兵ニテ爆発掃除中、軍港内ノ艦船艇ハ日本国旗ヲ挙ケタリ、支那避難民ハ四方ヨリ馬車ニ家族荷物ヲ積ミ帰来中

自三十七年十一月廿六日松樹山補備砲台攻撃

至三十八年一月二日鳩湾戦闘マテニ　死傷七千五百三人

正月屠蘇酒ヲ呑ミテ曰ク

筒先きを旅順に向ケて御慶可南

一月四日　晴天　舎営

捕虜水兵酩酊ノ上我包囲線ニ来ル、二〇三山上ニテ戦友屍ヲ火葬中、旅順市街及砲台、軍艦受領中、後備第一聯隊老鉄山上ニ守備トシテ登山ス

一月五日　晴天　舎営

遼東熱全快ス（今回ノ病気四日間ハ毛布ノ上ニ空俵及筵ヲ着ケ恰モ乞食ノ如シ）、捕虜三万一千人ヲ旅順ニ二万人夏家屯ニ一万一千人収容ス、当師団長捕虜収容委員長ヲ命セラル

一月六日　晴天　舎営

二〇三山及松樹山戦死者追弔会参列ヲ命ゼラル、昨夕夏家屯ニ収容セシ捕虜小東溝ヲ経テ青泥窪ニ向フ、乃木中将ハステツセル中将ヨリ乗馬二頭ヲ貰ヘリ

一月七日　晴天　舎営

第三補充兵二百十六名利家屯ニ到着セリ、捕虜ハ三百人ヲ一隊トナシ通過中、敗軍ノ名将ステツセル将軍閣下ハ我　天皇陛下ニ拝閲ヲ仰付ラレタルニ付青尼窪ヲ経テ東京ニ参内トシテ発セラル

一月八日　晴天　舎営

捕虜海軍水兵通過セリ、捕虜聯隊長以下長蛇ノ陣ヲ為シ日本輸送ヲ見テ敵ト雖モ涕流ノ措ク所ヲ知ラズ

一月九日　晴天　舎営

酒ノ給与アリ其他記事ナシ

一月十日　晴天　舎営

午前十時利家屯ニテ第三軍ニ賜リタル　天皇皇后皇太子ノ勅語并奉答文ノ奉読式アリ、開散后鳩湾北岸、羊頭窪駐屯第三大隊本部ニ伝騎トシテ真島、高薄二名ヲ率イ出発、本日女子高等師範学校附属高等女学校卒業生団隊作葉会員牛込区矢来町四番地遠藤奈津子ヨリ手拭、鉛筆、山桜、ポンチ画、ノ慰問品并ニ岩おこし、封緘状袋、恤兵部ヨリ寄送アリ

一月十一日　晴天　舎営

本日陸軍恤兵部ヨリ岩おこし状袋ノ給与アリ

一月十二日　晴天　舎営

午前六時聯隊本部及林伊次郎ニ面会セントテ大平溝ニ行キタルニ遼陽

方面出発後ナリ、今尚ホ地雷爆発中

一月十三日　晴天　舎営

旅順入城式アリ、上等兵以上ニ限ル、大越砲台及望台、黄金山砲台ヲ見ルニ其堅城鉄壁ナルニ驚ケリ、市街ヲ巡視シテ軍艦ノ惨憺タル弾痕ヲ見テ我海軍ノ砲術ニ長シ居ルヲ讃セリ、前日第廿七聯隊遼陽ニ向テ出発ス

一月十四日　晴天　舎営

午后九時伝騎トシテ小東溝和田主計ノ許ニ行ク、水師営ニテ第三軍追弔会及将校ノ宴会アリ

昇る旭日に　旅順の露ハ消へにけり

一月十五日　晴天　舎営

伝騎トシテ聯隊本部ニ行ク、真鍋曹長ニ会フ、去ル十三日来乗馬兵義号病気ス

一月十六日　晴天　舎営

羊頭窪第三大隊ヨリ馬病気ノ為メ帰ル、随家屯ニテ増毛町宮田与之助氏ニ面会ス、夜中宮田氏ヲ誘フ馬ノ診断ヲ受ク、休業

一月十七日　晴天　舎営

本日ハ難攻不落ト称セシ二〇三山上ニテ数千本ノ墓碑ヲ立テ山上ニテ廿五聯隊祝捷会ヲ行ヒ聯隊長ノ演説ニ一同涕泣ス、式中第九師団長大島中将閣下登山シ来タル、式解散帰途騎兵第七聯隊本部ニ伝騎トシテ行ク、本夜酒ノ給与アリ、大ニ呑ミ歌イ舞フ、餅、岩オコシ、旅順落陥草子其他三品ノ寄贈アリ、聯隊ヨリ月寒将校婦人会寄贈ノハンカチ布分配アリ

一月十八日　晴天　舎営

利家屯ヘ糧食受領ニ行ク、酒肴料金十銭給与アリ、小豆餅給与サル、午后七時近江上等兵乗馬ハ支那人味噌亀（ママ）ヲ破壊シ味噌散流ス、大ニ笑フ、本日旅順市街及砲台従（ママ）覧ヲ許ス、二〇三山ヲ鉄血山ト改称ス、第三補充大隊長泉中佐ハ二〇三山上我兵ノ頭ヲ幷ベ累死ヲ見テ其惨憺ナル状ヲ想ヒ左ノ歌ヲ作レリ

仇船の藻屑となりし源は／屍の山の血塩とぞ知る

一月十九日　晴天　舎営

本日第一大隊ト共ニ黄金山、松樹山、仝補備砲台、二龍山、各砲台内ニ行タルニ十二月廿八日爆発ニテ山ヲ壊シ其屍ノ積累幷ニ外濠及人造石兵営ノ堅固ナルニ驚ク、林君ニ面会ス

一月二十日　晴天　舎営

午前大平溝ニ第廿八聯隊第一中隊林伊二郎ニ面会ニ行ク、会飲ス、午后利家屯第一大隊本部ヘ駄馬ヲ率イ糧食受領ニ行ク、北進準備ノ為メ荷物混（ママ）包ス

一月二十一日　晴天　舎営

出発準備中本朝五時先発隊出発ス、兵ヲ率イ戦死兵十七名ヲ火葬トス、渡辺曹長ト会飲ス

一月二十二日　晴天　露【舎：抹消】営

午前七時小東溝ヲ発シ知人ナル支那人ノ別レヲ惜マレツ、北進ノ途ニ就ク、長嶺子ニテ昼食、西佐幸ニテ村落露営（行軍里程八里）

一月二十三日　晴天　舎営

前六時先発隊附属トシテ前牧城子聯隊本部ニ行ク、野原中尉ト共ニ出

発、大連湾ニテ昼食、南開嶺及南山ノ古戦場ヲ過クルニ敵兵屍ハ夏ヲ過キ腐レ白骨斗リナリ、諺ニ異郷ニ屍ヲ曝ス実ニ此事ナリ、自己ノ未来ヲ慮リ感又胸ニ迫レリ、西ハ渤海湾、東ハ大連湾ニシテ其半島二千米突ト云フ、后金州城着、西雀家屯ニテ宿営ス、厳寒人馬大ニ困難ス、夕食セシハ夜半十二時二十分ナリ（行軍里程八里半）

一月廿四日　大吹雪　舎営

午前金州城ヲ見ルニ北永門、城壁ニ日清役ノ砲弾（真鑵）痕アリテ難攻ノ状ヲ現ハセリ、大風行軍大困難、金州城外壁ノ堅固ナルニ驚ク、本日駐軍人馬休養ヲナセリ

一月廿五日　大風寒　舎営

前六時先発隊附伝騎トシテ花輪少尉ト共ニ北進、午后一時龍口兵站支部着、渡辺曹長外二名営口市街ニ向テ前進ス、厳寒鼻ヲ墜スノ思ヲナセリ、本日行軍里程五里（日本里）

一月廿六日　大降雪　舎営

前夜ヨリ降リ続ケル大吹雪、前八時発、普蘭店兵站部ニテ昼食、午后五時大長家屯張得貴宅ニ宿ス、普蘭店古戦場ヲ踏査スルニ激戦ノ状今尚現存セリ、本日寒烈耳及顔面上ニ氷リ張リ頭毛ハ軍帽ニ氷リ付キ鼻ニ石ヲ入レタル如ク其厳寒ハ如何ニ北門鎖鑰ノ干城ト雖モ仮令フルモノナシ、恰モ雪ノ進軍歌ニ似タリ、本日行程五里トス

一月廿七日　晴天厳寒　舎営

午前七時野原副官ト共ニ出発、李家屯兵站司令部ニテ昼食、字三十里堡ニ宿営、当地ハ元城郭ノ所在地ニシテ部落ノ東南ノ角ニ高サ五十尺ナル石造高塔アリ、人民頗ル懇切優待サル、当夜舎宅逍英忠ヨリ支那焼酎寄贈アリ、又支那焼ノ石杯ヲ貰フ、本日行軍五里

一月廿八日　晴天　舎営

前八時三十里堡発、午后一時復州城着ノ上、南開外、福源海宅ニ泊ス、当地ハ金州城ト同一築造ニシテ周囲極メテ堅固市街繁昌ニシテ軍政署アリ、行軍五里半

一月廿九日　晴天　舎営

復州滞在、前九時通行軍隊ノ為メ設ケタル湯ニ入浴ス、午后市街散歩、糧秣ノ件ニ付高橋主計ニ談判ス

一月三十日　晴天　舎営

前八時復州東門出発、午后二時蕉家屯字夏家屯ニ着、侠宿（ママ）舎営二墨間ニ十名宿ス、旅順出発以来ノ暖気ナリ、行軍容易ナリ

一月三十一日　晴天　舎営

前六時三十分先発隊トシテ出発、午后一時李官栅兵站司令部着、特別給与菓子代トシテ金十銭ヲ給セラル、行軍四里半

二月一日　晴天　舎営

前六時発、正午熊岳城着、停車場ニテ昼食、字幕旗村宿営、厳寒鼻ニ石ヲ入レタル如ク耳氷リ涕氷リ八寒地獄ノ思ヲナセリ、熊岳城モ金州ノ如キ堅城ナリ、当地ヨリ一千米突ニテ西比利亜鉄道中第一長キ鉄橋アリ、第八師団全滅ノ情報アリ、行軍四里

二月二日　晴天　舎営

前八時発、厳寒鼻穴氷結ス、午后二時蓋平城軍政署着ノ上城内馬駿烈宅ニ宿ス、当家ハ蓋平ノ富豪家ナリ、厳寒の（ママ）為メ手及顔面ニヒビ切レ出血流レリ、行軍八里半

二月三日　晴天　舎営
滞在入浴ス、馬交換ノ件ニ付兵站部ニ行ク、本日ハ清国天長節ニテ支那騎兵及富豪家ハ乗馬又ハ高輿ニテ行列ヲ練リ廻リ市内所々ニ烟花アリ、当地ハ蓋平県庁所在ナリ
二月四日　晴天　舎営
前八時出発、旅順発以来ノ好天気ナリ、午后二時営口ヲ去ル四里南大平山字柳樹屯ニ着、当兵站司令官ハ鷹森大尉ナリ、中溝少佐ヨリ露都混乱皇帝行衛不明ナルコトヲ聞ケリ、行軍六里
二月五日　晴天　舎営
八時発、営口原野ニテ野外演習ヲ行ヒ午后二時大高丱（カン）兵站部着、即時宿舎ニ就キ本日第一梯隊ヲ解ク、兵站部ノ湯ニ入ル、久々振ニ付実ニ愉快仮令フルニモノナシ、行軍六里
二月六日　晴天　舎営
前八時軍旗ト共ニ大高丱（カン）発、本日ハ大隊各個宿営、嶽家屯着、本日給与ハ携行糧秣給与トス、行軍六里半
二月七日　晴天　舎営
前八時第十三旅団伝騎トシテ真島忠三ヲ率ヒ牛荘街ニ派遣セラル、午后三時ヨリ耿家庄子在第五聯隊本部ニ伝騎トシテ出発、途中道ヲ迷イ敵前殊ニ暗夜如何トモスル能ズ、支那人家ニテ未明目的地四方台着、本日ヨリ警戒勤務トス
二月八日　晴天　舎営
四方台聯隊本部ヨリ耿家庄子旅団司令部ニ至ル、昨夕安心店及遼陽間ノ電線切断サル
二月九日　晴天　舎営
未明大至急用伝騎トシテ四方台渡辺大佐ノ許ニ行ク、前十時ヨリ吉田少将閣下ト共ニ勝鰲堡ニ行ク、本日敵ノ大部隊我前面ニ向フトノ情報ニ依リ警戒ヲ厳ニセリ、近江、松岡通信部ヨリ帰隊ス
二月十日　晴天　舎営
勝鰲堡滞在、異状ナシ、昨年ノ今日焼尻分署ニテ当直中露国ニ対シ国際交誼断絶ノ電報ヲ回顧シ無念ノ感ニ堪ズ
二月十一日　晴天　舎営
当地滞在、記事ナシ、酒ノ給与アリ
二月十二日　仝上
当地滞在、記事ナシ
二月十三日　仝上
廿六聯隊斎藤斥候兵松岡ト交代、桑野、高耿庄子ヘ伝騎トシテ差遣ス
二月十四日　仝上
本日ハ安心站ノ原野ニテ野外要務令中、砲兵ニ対スル件改正ニ付第十三旅団ノ野外演習ヲ兼ネ研究セリ、本日ハ吉田少将専属伝騎勤ム
二月十五日　晴天　不眠勤務
敵騎兵大集団中立地帯ヲ通過シ渾河ヲ渡リタルノ情報ニ依リ該敵攻撃ノ目的ヲ以テ午前三時勝鰲堡出発、吉田少将閣下直属伝騎トシテ戦闘行軍前衛ニ在リテ前進、途中太子河ヲ渡リ小河口ニ入ラントスル時支那馬賊ノ一隊ヲ敵ノコザック騎兵ト誤リ前兵ハ小戦闘、午后五時高家坨子ヲ経テ渾河下流蛤蟆河着、午后六時ヨリ伝騎トシテ勝鰲堡在ナル大迫中将幷ニ参謀長宛ノ書幹（ママ）ヲ持チ宇佐美中尉ト共ニ出発、午后十一

時目的地着シタルモ馬疲労ノ為メ斃レ師団ノ予備馬ヲ貸リ重要伝騎ニ付騎兵一等卒石川尚太郎ヲ参謀ヨリ附随セラレ午前一時出発蛤蟆河ニ向イタルモ暗夜ノ為メ道ヲ迷フ、未明戦闘線ニ着、二夜睡眠セズシテ三十六里ノ行程大ニ疲労セリ

二月十六日　晴天　露営

午前六時余ノ師団長及参謀長ノ命令ヲ呈スルヤ吉田支隊ハ直チニ戦闘隊形ヲ以テ前進ス、余ハ大島副官ニ随イ渾河ノ偵察ヲ了ヘ浪胴子ヨリ唐馬塞ニ亘ル遁騎哨勤務、敵情異状ナシ

二月十七日　晴天　舎営

未明唐馬塞出発、吉田少将ト共ニ勝鰲堡ニ向テ引揚、帰途赤官堡ニテ騎兵第七聯隊本部立寄、本日管理部ヨリ輓馬九匹ヲ受領ス

二月十八日　晴天　舎営

本日勝鰲堡滞在、大ニ人馬ノ給養ヲナス

二月十九日　仝上

滞在、　天皇陛下ヨリ金廿銭菓子料トシテ下賜、昨日侍従武官当師団ニ来光、旅団司令部ヨリ七銭六厘下賜アリ

二月二十日　晴天　警急舎営

前六時高橋高級副官ト共ニ司令部出発、午后一時蕉泥窪（コデア）着、砲声盛ンニ聞ヘリ

二月二十一日　仝上

滞在、当地ハ我軍苦戦地ニテ四方ニ銃眼アリ、土煙揚ク咫尺ヲ弁セズ、日本酒ヲ飲ム

二月二十二日　仝上

滞在、吉田少将ト共ニ大子河工兵架橋ヲ巡視ス、敵大石橋ニ現ハレ鉄橋破壊ノ報アリ

二月二十三日　降雪　仝上

滞在、機関銃兵四十名到着ス

二月二十四日　晴天　舎営

滞在、入浴ス、金櫃部長馬丁剣淵村鈴木沢次ニ会フ

二月二十五日　仝上

滞在、清麻泡ナル二十六聯隊本部ニ二度伝騎トシテ行、第七回補充新兵到着ス

二月二十六日　降雪　仝上

滞在、奉天【抹消：出発命令出ズ】総攻撃出発命令出ズ、夜中工兵第七大隊ニ行ク

二月二十七日　晴天　舎営

本日ヨリ奉天包囲攻撃左翼軍トシテ午前五時蕉泥窪出発、吉田少将伝騎ヲ命セラル、歩兵第十三旅団ハ前衛トナリ良子溝ニ至リシ時我将校斥候ハ敵騎兵五百歩兵二百ニ遭遇シ苦戦ノ通報ニ依リ我砲兵ノ支援ヲ求メ撃退セリ、本夜当地ニ前哨ヲ配付セリ、前哨中隊伝騎六名トス（奥野上等兵以下五名）午后七時歩兵第廿五聯隊第七中隊ハ老観陀ニテ黒鳩一羽ヲ捕ヘ前哨司令官吉田少将ノ許ニ送リ来レリ、閣下曰ク汝黒鳩捕虜トナレリ、誓文スレバ帰国ヲ許ス、為サヾレバ日本ニ贈ルト云ヘリ、本会戦ハ戦線百【抹消：六十】里ニ亘リ彼我百万ノ大会戦ノ第一日ニ黒鳩ヲ捕虜トセルハ戦勝ノ吉兆ナリトテ一同大ニ元気百倍セリ

二月廿八日　晴天

前五時出発、阿司牛ニテ奇薩克騎兵大集団ニ衝突シ頗ル苦戦セルモ一時間二十分ニテ撃退セリ、前進続行中二里ニテ教師牛柵アリ、村端及高地一帯ニ敵砲兵及騎兵ニ衝突セルモ前衛中隊ニテ撃退セリ、奇薩克兵三名捕虜トセリ

三月一日　晴天　大風

戦期将サニ熟シタルモノヽ如ク天明ノ頃ヨリ敵ノ抵抗激シク【抹消：四台子ニテ】前五時牛心地出発、三杯柵ニテ敵騎五百ニ衝突セリ、頼化堡子ニテ警急舎営、夜ニ入リテ中央軍（近衛師団ナラン）ノ四方台攻撃ノ砲声及砲光盛ンナリ

三月二日　晴天　村落露営

午前四時戦闘開始、敵ハ新民屯ニ至ル旧鉄道高地ヲ占メ抵抗、午前五時頃ヨリ続々増加、仝八時ニ至リ旅順以来始メテノ激戦、敵数四万ト云フ、午后一時十分戦友田村外二郎戦死、狩野上等兵重傷、井熊特務曹長敵ノ鎗ニテ刺サレ即死、我軍死傷多ク勝敗決セズ日没ス、畑中ニテ戦線ノ儘終ル、飯ノ分配ナク生米及堅パン給与（吉田少将支那婦人ノ金盥ニテ汁ヲ飲ム）

三月三日　村落露営

午前五時戦闘開始、激戦恰モ百雷ノ落ツルニ似タリ、高薄徳次及田村乗馬死ス、午后三時半達子堡及頼化堡子ノ一帯ヲ占領ス

三月四日　晴天

馬斃レ引馬ニテ無名柵支那人物置ニ泊ス

三月五日　晴天

第三軍司令部ニテ昼食、無名柵ニテ宿泊ス、豚一頭徴発シ麦粉及キビ粉五桝徴発シ豚汁ノ中ニ入レテ食セリ、本日二十八聯隊激戦当隊ハ援隊ノ任ヲ受ケタリ

三月六日　晴天

歩兵第廿七聯隊前衛、他ハ援隊、第九師団劇戦中、豚ヲ三人ニテ軍刀ニテ徴発ス、日本酒ヲ呑ム、

三月七日　晴天

午前十時蕉緑江軍ト当師団ト連絡ヲ通シタルモ未ダ完全ナラズ、我騎兵将校斥候ニテニ（ママ）テ西比利亜鐵道破壊セルモ完全ナラズ昨夕敵襲ニ依リ我第一大隊長以下全滅ス、難戦苦闘ノ状筆ニ書ク能ズ

三月八日　晴天

敵軍ハ逐次鉄嶺方面ニ退却中ナルモ抵抗尤モ強シ、大石橋ヲ占領ス、敵ノ遺棄セル屍路傍ニ続キ居レリ、米食セサルコト二昼夜

三月九日　大風　警急舎営

前五時破堡子発、敵中ヲ通過シ夜九時第十三旅団司令部着、敵ハ軽気球ヲ飛揚シテ我軍ヲ偵察セリ

三月十日　晴天　警急舎営

前日大石橋ヨリ転湾橋ニ通スル奉天街道側河中ニテ血及糞便水ヲ飲ム、奥野上等兵ヲ率イ近江上等兵捕虜トナリタル行衛捜索、夜中転湾橋及八家子、四台子、通過、三台子ニテ露営ス、午前二時右翼軍ト連絡斥候ノ命ヲ受ケ兵三名大東軍曹ト共ニ出発、途中北陵森林中ニテ歩兵第二十六聯隊決死隊長矢田大尉其他ノ惨殺サレアルヲ見慷慨涕流ス、其傍ラニ一上等兵ノ重傷者生命アリテ矢田大尉ナルコト判明セリ、大尉

ハ裸体トセラレ居レリ、未明奉天ハ確実ニ占領セリ

三月十一日　晴天

前五時三台子出発、退却敵追撃トシテ出発、前進七里ニテ中心泰ニ宿ス、鉄嶺砲台目前ニアリ、本日ハ斥候ノ小衝突ノミナリ

三月十二日　晴天　舎営

前十一時十三旅団長吉田少将命ニ依リ遼河ヲ通架スル敵軍舟橋及対岸三千米突以内ノ村落敵状偵察並ニ右翼支隊連絡斥候ノ命ヲ受ケ大東軍曹大月、渡辺、早川、ト五騎ニテ盃家台出発、石佛寺村ヲ経テ指命偵察帰隊途中敵ノ騎砲兵ノ前進セルヲ見ル

三月十三日　晴天　舎営

盃家台ヨリ石佛寺ニ前進、警戒厳ニシテ人馬ヲ給与ス、本日戦闘ナシ

三月十四日　晴天　舎営

早朝前哨司令官吉田少将ノ命ニ依リ大東軍曹ト共ニ遼河ヲ渡リ三面船小卡邦堡子、大卡邦堡子ヲ通過、二台子ニ至リ敵情捜索、午后五時石佛寺村ニ帰隊、鉄嶺要塞山眼前ニアリ

三月十五日　晴天　舎営

渡辺曹長特務曹長昇進、騎兵第七聯隊ニ転任、鉄嶺要塞ノ敵軍退却中ノ報アリ、戦死田村外二郎上等兵ニ昇進

三月十六日　晴天　舎営

石佛寺滞在、夜半〇時要塞堅固ナル鉄嶺山占領ノ報アリ、入浴ス、本夜会報ニテ奉天捕虜二十万人砲六百門ニテ古今無双ノ大勝利トス、奉天及鉄嶺死傷二十四万二千人トス

三月十七日　晴天　舎営

仝上滞陳（ママ）、秋山騎兵旅団ニテ哈爾濱南方要地点鉄道破壊ノ報アリ、本日石佛寺山頂ニ登リ満州平野遠望ス

三月十八日　晴天　舎営

前地滞陳（ママ）、異状ナシ

三月十九日　晴天　舎営

本日石佛寺山南麓ニテ奉天陥落祝加会勅語奉読式アリ、本日第一中隊ニ編入替ヲ命セラレ乗馬歩兵隊勤務ヲ命セラル、今晩十三旅団司令部ニテ祭文、浄瑠璃ヲ聞ク

三月二十日　晴天　舎営

石佛寺駐軍第五師団ニテ沼中ヨリ速射砲二門十五珊知砲榴弾二間ヲ発見分捕ス

三月二十一日　晴天　舎営

開円停車場占領、騎兵第七聯隊双樹子ニ移転ス、敵軍ギウキイ、ニテ隊伍整頓ノ目的ニテ退却、本日伍長昇進乗馬歩兵隊下士勤務ヲ命セラル

三月二十二日　晴天　舎営

補充兵二名入隊、奉天戦場掃除隊帰ル、旅団ニテ大声蓄音機ヲ聞ケリ

三月二十三日　晴天　舎営

本日酒ヲ呑ム、其他異状ナシ

三月二十四日　晴天　舎営

午前石佛寺南麓ニテ青山遊玄ノ説教ヲ聞ク、騎兵聯隊ニ渡辺特務曹長面会ニ行ク、遼河解氷セリ、田村上等兵遺骨到着、戦友一同焼香読経ス

三月二十五日　晴天　舎営
補充兵乗馬演習開始、其他異状ナシ
三月二十六日　晴天　舎営
午前新兵乗馬演習、午后騎兵聯隊ニ渡辺特務曹長面会ニ行ク、狩野上等兵退院ス
三月廿七日　晴天　舎営
補充兵乗馬演習、三宅曹長面会ス
三月廿八日　小降雨　舎営
石佛寺谷渓ニテ軍楽隊ノ奏楽ヲアリ、田村上等兵遺骨ヲ発送ス、奉天戦場掃除隊帰ル
三月廿九日　降雪　舎営
盃家台ニテ戦勝祝賀会及戦死者追悼会並ニ宴会芝居アリ、本夜依命強姦事件取調ヲ為セリ
三月三十日　降雪　舎営
ミスチエンコ大集団ノ為メ【消し：秋山】田村騎兵旅団支援ノ為メ第三大隊午前八時軍旗ニ決別式ヲ為シ蒙古金家屯ニ向テ前進、我乗馬歩兵隊ヨリ下士一兵卒六ヲ附随（遼河ノ軍橋ヲ渡リ中立地ヲ通過ス）
三月三十一日　晴天　舎営
午前乗馬演習、敵状ニ異状ナシ、散髪ス
四月一日　晴天　舎営
乗馬演習取止メ奉天分捕品砂糖及麦粉鶏卵ノ分配アリ、敵情異状ナシ
四月二日　晴天　舎営
圍山子西北方外乗演習、渡辺特務曹長面会、第二大隊ヨリ富山一等卒栗毛馬持チ帰ル
四月三日　晴天　舎営
午前八時四十分ヨリ石佛寺南麓ニテ祝捷会及追弔会読経アリ、聯隊一同涕泣ス、午后馬円子ニテ芝居、浄瑠利、祭文アリ、小生剣舞ヲ演ズ、宴会ニ列ス、今晩旅団司令部ニテ手品芝居アリ
四月四日　晴天　舎営
午前一時中溝支隊敵騎十七ケ中隊ニ包囲セラレタル急命ニ依リ当聯隊午前七時石佛寺出発、金家屯ニ向テ出発ス、中立地ノ土民ノ歓迎実ニ驚ク、季貝堡玉挺方宿ス（秋山支隊ノ応援ナリ）
四月五日　降雨　舎営
李貝堡出発、法庫門（良キ市街）ヲ経テ鳳岐堡宿ス、馬糧欠乏ノ為メ買入レ、敵情極メテ急ナリ、道路悪ク砲兵通過困難セリ
四月六日　降雪　舎営
前十一時小格子着、午后一時奥野上等兵、佐藤、鈴木ヲ率イ遼河偵察斥候トシテ劉家屯、河家富ヲ通過シ鶏ヲ徴発ス、昨夜敵騎退却セリ
四月七日　晴天　舎営
午前八時渡辺大佐伝騎トシテ金家屯ニ向テ戦況偵察ノ為メ出発、午后五時小格子ニ帰ル
四月八日　晴天　舎営
小格子駐軍、午后十一時秋山支隊及田村旅団前面三十米突ニ敵騎歩兵大部隊来リ、金家屯ヲ退却命出テ戦況愉快ナリ、奥野上等兵外兵三名ヲ電話所ニ差遣ス
四月九日　暴風　舎営

敵勇勢ニテ田村旅団及第三大隊金家屯ヨリ退進、防禦工事落成、午前兵二名ヲ率ヒ西遼河太迄敵情偵察斥候、第一中隊ハ右翼ナル通行溝占領ノ目的ヲ以テ出発、通行溝ハ吾馬賊二千名ニテ守備中ナリ

四月十日　晴天　舎営

本日吾騎兵一中隊ニテ金家屯ヲ再ビ占領ス、秋山支隊ハ大小屯占領、昨日測図将校斥候二組捕虜トナル、一組ハ負傷ノ上帰ル、敵ハ漸時北方ニ退却ス、第七師団司令部寳庫門ニ着ス

四月十一日　晴天　舎営

前九時渡辺聯隊長ノ命ニ依リ金家屯南方ニテ露兵逃走馬八頭ヲ捕獲ス、今朝未明ヨリ吉林方面第一軍前面敵退却通報アリ（大釜ニ入浴ス）蹄改装ス

四月十二日　晴天　舎営

新馬懲教ニ終日ヲ費ス、本夜日本酒給与アリ、煙草菓子梨子ノ分配アリ、渡清以来ノ愉快ヲ極ム

四月十三日　晴天　舎営

午前大東曹長大月上等兵岡崎ト共ニ通行溝ニ行キ金五十銭ノ買物ヲ為ス

四月十四日　晴天　舎営

敵馬賊及敵騎二百金家屯南方ニ出没ス、我軍三家子ニ退却、我馬賊一千名法庫門北方ニ移ル、敵馬賊七名捕虜トス

四月十五日　晴天　舎営

敵騎及後援隊五六中隊金家屯ニ来ル、富山野戦【消し：病院ニ行ク】郵便局ニ行

四月十六日　晴天　舎営

午前三時第一大隊ハ三家子ヨリ新立屯ニ来リ宿営セル敵騎中隊ニ向テ夜襲セルニ敵ハ睡眠中ナルヲ以テ散乱銃ヲ持タザルアリ帽ヲ冠セザルアリ剣ヲ佩セサルアリ、四十分ニシテ敵将校一兵四十即死、我軍即死一、負傷一ナリ、午前九時新立屯東北ニテ我軍ヲ包圍セントセル敵軍ニ対シ我砲兵ハ小格子高地ヨリ援護射撃ヲ為シ夫レニ依リ包圍セズ、日没敵ノ将校間諜等シキモノ七名ヲ捕虜トス

四月十七日　晴天　舎営

敵ハ大小屯方向ニ退却、我第一中隊通江溝守備ヲ第一師団ト交代ス

四月十八日　降雨　舎営

敵ハ小豆村ニテ馬場支隊ト交戦中砲声盛ンニ聞ヘリ、豚二頭徴発ス、当夜第二大隊ニテ祭文、浮レ節ヲ聞ク、通口溝ニ第一師団全部来ル

四月十九日　降雨　舎営

敵退却、田村騎兵旅団馬斃ル、遼河船橋落成ス、本夜一人ニ付梨子五個分配アリ

四月二十日　晴天　舎営

日本酒ヲ呑ム、第二大隊本部ニテ祭文ヲ聞ク、本日敵歩兵二名我将校斥候ニテ捕虜トス、捕虜ハ自己矩銃ニテ自殺ヲ企テタリ

四月二十一日　晴天　舎営

軍参謀来ル、敵ハ金家屯北方ニ騎哨ヲ配付シ所々ニ出没ス、当隊ニテ遼河渡舟徴発ノ為メ上下流ニ行ケリ

四月二十二日　晴天　舎営

宿舎移転、講和談判破レ敵艦隊台湾海ヲ遊弋ストノ報アリ、警急舎営

トナル、海軍活動期来レリ、支那人間諜多捕へ調中

四月二十三日　晴天　警急舎営

当隊付輜重輸卒梅沢伊蔵第二野戦病院入ル、正午ヨリ敵騎、高石溝及ヒ三眼井ニ主力前進、敵砲兵三家子ニ砲撃中、我死傷ナシ、敵即死七負傷三十異状、我砲兵ノ効力大ナリ、秋山騎兵旅団ハ昌図ヨリ通江口ニ退却ス、我乗馬歩兵ハ遼河偵察及敵ノ舟ヲ切流スノ任【消し：ナリ】ニテ出発

四月二十四日　晴天大風　警急舎営

敵ハ金家屯北方ニ退却、秋山、追為両支隊ハ敵ニ包圍サレ電話線切断セラル、当聯隊ハ警戒ヲ旧ニ復ス

四月二十五日　晴天　舎営

土人ノ言ニ依レバ午前敵騎一ケ中隊ハ南嶺ヨリ来リ所々ニ活動スルモ大差ナシ、狩野上等兵ト酒ヲ呑ム

四月二十六日　晴天　舎営

遼陽加法ハ敵ニ占領セラルトノ通報アリ、我左翼ニ敵騎迂回運動中、今晩陳中、善哉及瓶入上酒恤兵部ヨリ給与アリ

四月二十七日　晴天　舎営

渡辺大佐ノ命、遼河上流方家屯ニ至リ支那人ノ小舟ヲ徴発シ遼河渡渉点偵察斥候、焼尻島出身工兵藤巻君ヨリ露助写真ヲ貰ウ

四月二十八日　晴天　舎営

午前聯隊長ノ命、死刑場偵察午後我電話線ヲ切断シタル支那人一名斬首一名射殺見物人数万集レリ

四月二十九日　晴天　舎営

第九回補充兵着隊、敵情ニ就テ更ニ得ル所ナシ

四月三十日　晴天　舎営

第十回補充兵着隊、第二大隊本部ニテ祭文、浄瑠利[ママ]ヲ聞ク、小寺特務曹長ニ面会ス

五月一日　晴大風　舎営

敵情異状ナシ、西風蒙古ノ砂風来リ咫尺ヲ弁セズ、是ヲ砂漠ノ砂風ト云フ、小格子ヲ去ル九里左前、七家子ニテ田村騎兵第二旅団第十五聯隊馬男木大尉以下中隊全即死只三十四名帰隊ス

五月二日　晴天　舎営

午前胡家屯第三大隊ヘ伝騎小寺準[ママ]士官面会ニ行ク、真鍋曹長ヨリ栗オコシ一函ヲ番[ママ]番ニ托シ送ラル、本日平城少佐ノ指揮ニテ第十五聯隊ノ残部三ケ中隊七家子ニ向テ死体収容（田村騎兵）及其敵撃退馬男木大尉ノ復仇トシテ出発、昨日馬男木大尉ノ各闘ハ日本騎兵ノ鏡ニテ戦線一里ニ渉ル、頗ル惨憺タルモノナリ

五月三日　晴天　舎営

午前八時ヨリ兵十名ヲ率ヒ加藤副官ト共ニ大平庄、両家子、ヲ経テ還陽樹ニ至ル、各村ニテ舎営地偵察斥候

五月四日　晴天　舎営

本日ヨリ小格子守備ヲ第一師団ト交代、兵九名ト共ニ渡舟ヲ遼河上流ニ航上ス、午后六時任務ヲ終ヘ還陽樹聯隊本部着、本日ヨリ渡辺支隊ノ名称ヲ解ク

五月五日　大砂風　舎営

聯隊長依命、大東軍曹、早川、高薄、宮本、知野、松岡、馬賊一名ト

共ニ斉家虻子、套之李、千家窩棚、桃萎、苅家虻子、魁発有、郭家堡子、ヲ通過シ東、西遼河ヲ渡渉、中立地ヲ通過シ第九師団司令部ト連絡ヲ通ジ途中敵情偵察斥候、帰途午后二時半苅家虻子村落ニテ宮本一等卒馬蹄傷左足下部骨折セル折柄前方村落ニ敵騎出没セルヲ以テ混雑セリ、本日砂煙風ニテ咫尺ヲ弁セズ、此困難筆紙スル能ズ

鳴ク虫ノ音ハ変ラネド　只友人ノ変リケル哉

第三軍参謀長一戸少将夜中幕舎ニテ戦友ノ死ヲ見テ作ル

五月六日　晴天　舎営

聯隊長ト戦線ヲ巡視ス、我騎兵ト格闘戦死セシ敵屍畑中所々ニ埋メアルヲ発見ス、宮本伝松ヲ康平県野戦病院ニ送ル

五月七日　晴天　舎営　日

敵情異状ナシ、本日学校ヨリ富士太郎書面来ル、散兵溝工事中

五月八日　晴天　舎営

本日野戦電話架設アリ、機関銃ノ射界ヲ広メン為メ前面村落ヲ伐木ス、遼河右岸第九師団交戦中ナリ

五月九日　晴天　舎営

敵状ニ就テ異状ナシ、本夜北星女学校生徒ヨリ慰問袋来リテ分配ス（旅順包囲軍人ノミ）其開封迄ノ愉快ナルコト陳中（ママ）ノ唯一ノ咾嗃ナリ

五月十日　晴天　舎営

本日午后二時渡辺大佐ト共ニ遼河渡渉場偵察トシテ乗馬歩兵一同出発、裸体ニテ泥水中ヲ偵ス、遼陽下方三里前方ニ敵騎三百来ル、又昌図ハ敵軍ノ占領スル所トナル

五月十一日　晴天大砂風　舎営

敵状ニ就テ異状ナシ、南大砂風咫尺ヲ弁セズ

五月十二日　晴天大砂風　舎営

奉天附近ノ会戦ニテ第二大隊及下士四人乃木司令官ノ感状授与式ヲ六字子村絡凹地ニテ行フ、西南ノ暴風蒙古ノ砂ヲ飛ジ砂煙咫尺ヲ弁セズ、困難仮令ニ物ナシ当聯隊軍旗ニ感状ヲ賜ハル

〔注〕

（1）「第七師団長　乗馬歩兵隊編成の件」（「謀臨綴　明治三十七年九月大本営陸軍参謀部」、JACAR　Ref.C06040458200、防衛省防衛研究所蔵）

（2）「第七師団歩兵聯隊ニ乗馬歩兵ヲ附シ度儀ニ付意見　第七師団司令部」（同、JACAR　Ref.C06040485800、防衛省防衛研究所蔵）

（3）山本和重「北海道の徴兵制」（山本和重編『北の軍隊と軍都』地域のなかの軍隊1、吉川弘文館、二〇一五年三月）一四三頁。

（4）同右一四七～八頁。

（5）『新撰北海道史』第四巻・通史三（北海道庁、一九三七年八月）一〇二六頁。

（はらだ　けいいち　歴史学科教授）

二〇一七年十一月十五日受理